

〇ささやかでも、いつでも、何かの形で、平和のために声を出し続けたい！
「平和をまもるのは一人一人の意志」と井上ひさしさんは話していたそうです。



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.145

2010(平成22)年 9月 2日(木)発行

<65年前の昭和20年9月2日、東京湾上のミズーリ号で降伏文書の調印式が行われた>



●その日は「二百十日」だったが、風もなく波も静かな日曜日だった。東京湾上の戦艦ミズーリ号で、午前9時、降伏文書の調印が行われた。日本側全権の外務大臣重光葵(しげみつ まもる)と参謀総長梅津美治郎(うめづ よしじろう)が到着するとまもなく、テントもない甲板上で式が始まった。海上にはアメリカやイギリスの軍艦がこれを取り囲んでいた。重光・梅津に続いて、連合国軍最高司令官マッカーサーと9カ国の代表が降伏文書に調印をし、第二次世界大戦も最後の幕を閉じ、昭和27年までの日本占領の開始となる。

●今年7月、ロシアはこの日を「第二次世界大戦終結の日」と法改正し、記念日と初めて制定。極東を中心に各地で「戦勝」を祝った。これは北方領土問題と関わっているのでしょうか。

来年1月28日(金)・29日(土)・30日(日)原町で開催

漫画家による「戦争体験の絵」展示会

「漫画展 中国からの引き揚げ～少年たちの記憶」(パネル60枚)



★7月の会報No.139でも取り上げましたが、日本の著名な漫画家の中には、中国大陆で戦争に巻き込まれ悲惨な体験をされた方がたくさんいて、反戦平和を強く決意している方もおられます★赤塚不二夫『でっかいリュックを背負ってかあちゃんにしっかりつかまって』、ちばてつや『引揚船は大きくたくましく見えた』、森田拳次『8月15日をさかいに』、北見けんいち『バケツリレーで防火演習』、山内ジョージ、横山孝雄など、現実の戦争体験を絵に描いたパネル約60枚を展示します。★もちろん、主催は「はらまち九条の会」。会場は未定。プロの絵ですから見応えのある、すごい展示会になると思われます。ご期待ください。(※全国で人気があり、パネルはこの日程でしか借用できませんでした)

空襲被害の初の「全国組織」が発足

太平洋戦争末期の空襲で、障害を負ったり肉親を奪われたりした空襲被害者が、初の全国組織「全国空襲被害者連絡協議会」を8月14日に結成しました。これまで旧軍人・軍属には支給があっても、民間人の訴訟では「等しく受忍しなければならない」と国は主張してきました。

原町の空襲被害者についてはどうなのでしょう。

アッという間の2時間でした！
朝日座を楽しむ会主催、市教育委員会と本会後援で、9月1日「松元ヒロ・ソロライブ」が朝日座で開催され、約60名が入場。政治家の風刺や、ピースポートで南アメリカへの旅行談など、予定時間を大きく超える熱演でした。

ちいさい秋みつけた サトウハチロー

— だれかさんが だれかさんが
だれかさんが みつけた
ちいさい秋 ちいさい秋
ちいさい秋 みつけた

めかくし鬼さん 手のなる方へ

すましたお耳に かすかにしみた

よんでる口ぶえ もずの声

ちいさい秋 ちいさい秋

ちいさい秋 みつけた



■日本人の季節感を、子どもの世界で鮮明に表現した童謡の傑作で、どこか切ない気分になります。作曲は『夏の思い出』などの中田喜直。

■サトウ・ハチローは、1903～73、東京都生まれ。小説家佐藤紅緑の長男。父に徹底的に反抗し、転校や落第を繰り返した。西條八十に師事。

(齋藤孝『声に出して読みたい日本語3』草思社より)

「もず(百舌・鵲)」はかん高い鳴き声。獲物を枝に刺して「はやにえ」をつくる。

没後5年、今光る後藤田正晴氏のことば

- 「日本の政治で一番大切に思っていることは、平和を守っていることです。海外へ出て武力行使なんてのは絶対やっちゃいかん。集団的自衛権も憲法で禁じられている。なんでそういう愚かなことを考えるのかね」(戦争を知らない若い政治家が、軽々と戦争を語り、集団的自衛権や改憲を主張することを怒っていました)
- 「武力によっては他国民、他民族に従わせることはできない。僕は加害者の立場の経験を持っているからそう思う」(東大卒業後、官僚として旧内務省に勤め、戦争中は台湾に出征した経験からのことば)
- 「国民全体が保守化し、政治家がナショナリズムをあおる。大変な過ちを犯している。アジア近隣諸国との友好こそ大事なことだ」(平成17年7月、小泉純一郎首相の靖国神社参拝を危惧しての発言です)

* * * *

これらは5年前の平成17年9月19日、91歳で亡くなった自民党衆議院議員・元副総理、後藤田正晴さんの言葉です。自民党政権では「カミソリ」「カミナリ」とよばれる切れ者でしたが、晩年は護憲と平和を訴え続けていました。混迷を深める今、党派を問わず、こういう芯のある政治家が懐かしく思われます。



「非核三原則」、「武器輸出三原則」も「集団的自衛権」も見直しだなんて

《新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会》の報告

◆8月の会報No.144でも取り上げましたが、菅首相の私的諮問機関の「懇談会」が、国是のはずす「非核三原則」の「核を持たない・核を作らない・核を持ち込まない」の「持ち込まない」の見直しでまたアメリカに迎合する提案や、財界からの要請なのか、「武器輸出三原則」や、アメリカに向かうミサイルを日本が打ち

落すために「集団的自衛権」の見直しも提案しています。◆平和外交、核廃絶、軍縮、友好のはずが、もう戦闘準備に入ったかのようです。

「読書の秋」話題の本・読んでみたい本

「私たちが子どもだったころ、世界は戦争だった」

(文藝春秋出版 ¥1,900 四六版上製400頁)

第二次世界大戦中の世界各国の少年少女16人の手記を彙編 八牧美喜子さん(原町区)と特攻隊員の手紙も掲載

八牧さんは原町飛行場の特攻隊員との交流を『いのち』という本に著しています。本会会員。会報No.80にも「戦争体験」を掲載。



私たちが子どもだったころ、世界は戦争だった

「近代日本の戦争 台湾出兵から太平洋戦争まで」

(高文研 梅田正己著 ¥1,890 四六版上製286頁)

田母神・元空幕長のような虚偽の歴史観を徹底検証。



「昭和二十年の夏 女たちの戦争」 (角川書店 梯久美子著 ¥1,785)

近藤富枝、吉沢久子、赤木春江、緒方貞子、吉武輝子の5名の戦争体験をインタビュー。

「原爆は日本人には使っていないな」

(早稲田出版 岡井敏著 ¥1,890 四六版上製)

原爆はドイツではなく日本に落とされたのは、やはり人種差別的のせいなのか。

「一週間」

(新潮社 井上ひさし著 ¥1,995)

昭和21年のハバロフスク。日本人捕虜・小松修吉は若きレーニンの手紙を入手する……。大江健三郎も絶賛。「井上最後で最高の長編小説」。



「人は愛するに足り、真心は信ずるに足る アフガンとの約束」

(岩波書店 中村哲・澤地久枝対談 ¥1,900)

64歳中村医師の平和への行動力のすごさを。

「昭和17年夏 幻の甲子園」

(文芸春秋 早坂隆著 ¥1,680)

昭和16年、文部省の命令で突如中止された夏の甲子園大会。翌17年に出場16校大会が1回限りで開催される。8月NHKで放映。



「終わらざる夏 上・下」 (集英社 浅田次郎著 ¥(各)1,785)

終戦直後、千島列島の占守島(シュムシュ島)でのソ連軍との理不尽な戦いで亡くなった市民たち…